

| セッション

2026年8月5日(水) 11:00 ~ 12:20 | J306(本館3階)

| [SS-7] 国際共修の対話を可視化するー翻訳AIを用いた合意形成型ディスカッションの分析とデータ基盤構
想

◆ 日本語発表

11:00 ~ 12:20

| [SS-7-01] 国際共修の対話を可視化するー翻訳AIを用いた合意形成型ディスカッ
ションの分析とデータ基盤構想

*葉佐 賢太郎^{1,2}、*浅津 嘉之¹、*巳波 弘佳¹、今西 祐介¹、*吉見 弥優¹ (1. 関西学院大学、2. プリティッシュコ
ロンビア大学)

キーワード：国際共修、異文化コミュニケーション、AI

受講者に求められる 事前の知識・経験等
なし

受講者が受講前に取り組む 事前課題等
なし

概要

本発表では、昨年度に関西学院大学において開講した多文化共修科目におけるAI活用の授業実践をふまえ、国際共修における合意形成型ディスカッションを対象に、翻訳AIの有無が対話に与える影響を検討します。昨年度の発表では、関西学院大学の多文化共修科目における実践を通して、AIが異なる文化的背景や言語能力の差異を補い、異文化間コミュニケーションを支える可能性について報告しました。

今回は、その後に進めた2025年度の実証研究をもとに、字幕翻訳機能を用いた条件と非使用条件を設定し、発話量・発話速度・表情由来の感情指標を手がかりとして、参加者間の相互作用の違いを比較しました。あわせて、観察所見や自由記述も参照しながら、翻訳AIが対話参加のしやすさ、理解確認のあり方、合意形成の進め方にどのように関与するかを多面的に分析しました。

2025年度の授業実践と秋学期の実証研究からは、AI活用が一部の学生にとって言語的・心理的負担を軽減しうる一方で、その効果は一律ではなく、グループ構成、活動設計、翻訳精度、参加者の関与の仕方などの条件によって異なる可能性が示唆されています。本発表では、量的指標と質的所見を接続しながら、翻訳AIが国際共修の対話に及ぼす影響の条件要因を整理し、AIを前提とした授業設計のあり方と、今後の対話とコミュニケーションに関する研究のための統合データベースプラットフォーム構想を提案します。

国際共修におけるAI活用や、異文化間コミュニケーションの教育実践に関心をお持ちの方は、ぜひ本セッションにご参加いただき、今後の教育への応用について共に議論できれば幸いです。

<本セッション構成> (予定)

1. 問題設定・研究問い (5分)
2. 実証研究の分析結果 (15分)
3. 教育実装への含意 (15分)
4. 話やコミュニケーションに関する研究のための統合データベースプラットフォーム構想 (15分)

分)

5. 質疑応答（30分）

※当日の発表の後半では、対話やコミュニケーションに関する研究の活性化のために、個々の研究グループで収集された観察動画をメタデータや分析結果などと併せてオープンデータとして共有する統合データベースプラットフォームを提案します（基本的な機能として、匿名化・書き起こし・要約・統計・タグ付け、検索可能な対話コーパスなどを有し、分析機能もオープンに追加することも可能です）。当日は、これまで開発したプロトタイプを紹介します。また、発表後の質疑応答パートでは、お手元のスマホやPCから参加者の皆様からの匿名によるコメントや質問をスクリーンに投影しながら、スピーカーとオーディエンスによるオープンディスカッションを予定しています。ぜひご参加ください。